

5月14日は『天然痘記念日』です!!

5月14日は、世界で初めて『種痘』の接種に成功した日です。

1796年（寛政8年）5月14日、イギリスの外科医である**エドワード・ジェンナー**が**世界で初めて種痘の接種に成功しました。**



ジェンナーは、1778年から18年にわたって研究を続け、ジェンナーの使用人の子である8歳の少年に牛痘を接種しました。少年は若干の発熱と不快感を訴えたが、深刻な症状にはならず、6週間後にジェンナーは少年に天然痘を接種したが、少年は天然痘にはかからず、**牛痘による天然痘予防法**が成功したのです。

ワクチンの誕生

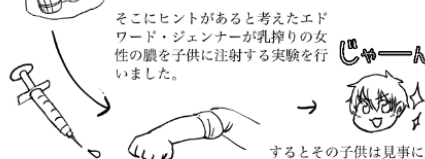
18世紀に天然痘と言病気が流行していました。



<エドワード・ジェンナー>

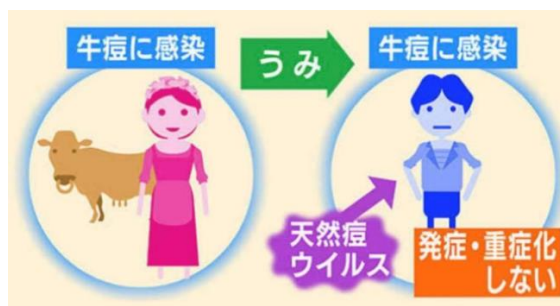


なぜか牛痘と言病気がかかった牛の乳搾りをしていた女性だけが天然痘にかかりませんでした。



そこにヒントがあると考えたエドワード・ジェンナーが乳搾りの女性の膿を子供に注射する実験を行いました。

するとその子供は見事に天然痘にかからなかったのです。
ワクチンは雌牛(Vacca)に由来してそう名付けられました。



種痘とは、天然痘の予防接種のことです。

当時、天然痘は最も恐ろしい病気の一つで、ヨーロッパだけで毎年60万人もの命が奪われていました。発症すると高熱が続いて、全身に可能性の発疹ができるため、運よく治った人でも顔中が醜い痘根（あばた：皮膚にぶつぶつの小さなくぼみが残る）となります。

天然痘は、高熱に加えて全身に水ぶくれのような嚢胞（のうほう）を生じさせ、致死率が約20%～50%と非常に高いのに加えて、感染力も非常に強いウイルスとして世界中で『不治の病』、『悪魔の病気』と恐れられてきた感染症のひとつでした。

天然痘の予防において、それまで行われていた『人痘接種法』より安全性の高い『種痘法』（牛痘接種法）が開発されました。

種痘の登場によって、天然痘による死亡者は劇的に減少し、1979年（昭和54年）10月末には、世界保健機構（WHO）によって天然痘の根絶が確認されるなど、世界で初めて撲滅に成功した感染症となりました。

【細菌とウイルスの違い】

細菌	ウイルス
<ul style="list-style-type: none">・単細胞生物・自己増殖が出来る・抗菌薬が効く	<ul style="list-style-type: none">・自己細胞がない・自己増殖出来ない → 媒体が必要・抗菌薬が効かない
ペスト、コレラ、赤痢菌 等	風、ノロ、コロナ 等

2022年5月14日

福岡ワンヘルス協議会・事務局